

「消防団加入促進」「ふるさと寄附金」を調査

大府市・東浦町を視察

4月19日に大府市と東浦町を訪問し、研修を行いました。

大府市では、消防団員の募集方法や消防団活性化会議などの説明を受け、市長や団長・地域の人たちが協力し合い取り組んでいる姿が伺えました。

外部意見を取り入れること、消防団応援自動販売機の設置など、参考となる事例が多くありました。



■大府市での視察風景



■東浦町での視察風景

東浦町では、ふるさと納税の実績をもとに、返礼品の選定方法や現状の問題点などを学びました。寄附額が多いのは、魅力ある商品の提供と、高額商品が提供できる体制によるものと考えられます。地域の特徴ある返礼品を事業者にも提案しており、特産品や企業のPRにつながることで、高額返礼品の種類を増やすなど工夫を凝らしている姿勢は、本町での制度を進める上で参考となりました。

屋内温水プール 民間活力を積極的に導入

屋内温水プール建設 調査特別委員会 中間報告

屋内温水プール建設調査特別委員会では、屋内温水プールについて平成34年度開設を目指し、さまざまな角度から調査・研究を進めています。

プール建設には、民間活力を積極的に導入してコスト削減を図るため、コンサルタント会社の調査結果なども参考に議論しています。

民間活力利用（PFI方式）のなかでも、DBO方式（公共が資金調達を負擔し、設計・建設、運営を民間に委託する方式）が、BTO方式（民間事業者が資金調達の上、施設を建設し、施設完成直後に公共に所有権を移転し、民間事業者が維持管理



■茨城県古河市中央運動公園温水プール

および運営を行う方式）に比べて、1億2000万円余の削減が期待できることを確認しています。

また、町が厳しい財政のなか、基金確保や目的債の発行により財源の確保ができる見込みであることなども確認しています。

他に、建設される屋内温水プールは、学校の水泳授業に利用することが予定されており、全小中学校へ課題の聞き取り調査も行っています。